

課程責任者： 菊地 俊夫 教授(人文地理学) → 沼田 真也 教授(保護地域管理、熱帯生物学、都市生態学)

要綱上の分類 分 野	必 修	科 目 名	単 位	講義概要	担当教員(敬称略、順不同)	
					旧(R1)※	新(R6)
自然科学 (6単位以上)	◎	観光科学プロジェクト演習I	2	環境の保全と適正利用に関する事象を共同で調査・研究し、その成果を地域社会などに還元する	菊地(同) 市古(都市計画、まちづくり、都市防災、災害復興分野) 直井(環境心理学、観光マーケティング、観光心理学、観光学) 野田(地域デザイン、建築、都市計画、農村計画、まちづくり)	仁平(人文地理学、地誌学) 相原(情報工学、行動把握・行動変容、サイバーフィジカルシステム、クラウドセンシング) 坂本(観光学・人文地理) 大平(土木計画学・交通計画) 小堀(造園学、自然公園、公園計画、観光・レクリエーション)
	◎	生物資源学	2	様々な生物資源を対象に、その特性、機能、持続的利用と保全のための理論と実践を学ぶ		
	◎	生態環境学	2	環境生態に関する基本的な概念と理論に基づいて、生態系の適正管理の方法を学ぶ		
	◎	観光地域分析演習	2	観光に関する文献を講読し、地域を研究する方法やフレームワークを学ぶ		
	◎	地域環境学Ⅰ	2	地域環境に関する基本的な概念と理論を理解し、地域環境の構造とシステムを実証的に理解する	菊地(同)	仁平(同)
	◎	地域環境学Ⅱ	2	地域環境の保全と適正利用に関する基本的な概念と理論に基づいて、地域環境の持続システムと管理方法を学ぶ	菊地(同)	仁平(同)
	△	自然環境マネジメント概論II	2	自然環境の保全と適正利用に関する持続可能システムと管理システム理論、実践例を学ぶ	菊地(同)	仁平(同)
	△	自然環境地理学	2	人間と自然との関わりを通じて、環境の本質と環境研究の理念を学ぶ		
	△	生態地理学	2	自然環境を構成する地圏・気圏・水圏・生物圏の相互関係を理解し、地理学のフレームワークで生態系を学ぶ		
		計	18			
社会科学 (6単位以上)	△	観光地誌学	2	観光地域を静態地誌的なアプローチと動態地誌的なアプローチで理解し、地域地理学の方法を学ぶ	菊地(同)	仁平(同)
	△	観光地理学	2	エコツーリズムやルールツーリズムを中心とした観光地理学を通じて、系統地理学の方法を理解する	菊地(同)	仁平(同)
	△	観光環境地図学	2	地図に関する基礎とツーリズムへの応用を学ぶ	菊地(同) 川原(都市・地域デザイン、観光まちづくり、観光地域マネジメント・事業論) 市古(同)	仁平(同) 大澤(生物多様性情報学、保全科学、生態系管理学) 倉田(地理情報科学、空間情報処理、観光情報システム)
		計	6			
人文科学 (6単位以上)	◎	観光科学プロジェクト演習II	2	具体の地区と計画依頼書を設定し、観光資源のフィールド調査から空間計画、観光事業の初歩的企画等の提案演習を行う	菊地(同) 市古(同) 直井(同) 野田(同)	仁平(同) 相原(同) 坂本(同) 大平(同) 小堀(同)
	◎	観光資源論	2	多様な観光資源の下でコンテンツを観光に展開する方法論について学ぶ	直井(同) 野田(同)	相原(同) 大平(同) 坂本(同) 小堀(同)
	◎	観光地域史	2	観光の基本、観光の概念、歴史、政策などを学ぶ		
		計	6			
ECO-TOP 総合科目	◎	自然環境マネジメント概論I (導入科目)	2	自然環境の保全と適正利用に関する基礎的概念とその実践的な適用方法を学ぶ	菊地(同)	仁平(同)
	◎	自然環境管理学 (まとめ、演習)	2	各人がそれぞれ研究してきたテーマをもとに、プレゼンテーションを行い、総合的な知識とその伝え方について学ぶ	菊地(同)	仁平(同)
		計	4			
インターンシップ	◎	ECO-TOPインターンシップⅠ (実習)	2	自然環境の保全や適正利用、およびそれらに関わる社会の活動として、企業から学ぶ	菊地(同) 高木(森林動物学・個体群生態学)	仁平(同)
	◎	ECO-TOPインターンシップⅡ (実習)	2	自然環境の保全や適正利用、およびそれらに関わる社会の活動として、行政、NPOから学ぶ	菊地(同) 高木(同)	仁平(同)
		計	4			
合計			38			

◎:必修 ※演習・実習型(インターンシップを除く6単位以上)

△:選択必修

※前回の更新申請はH30年度であるが、R1年度に変更申請があり、教員の変更があったため。